

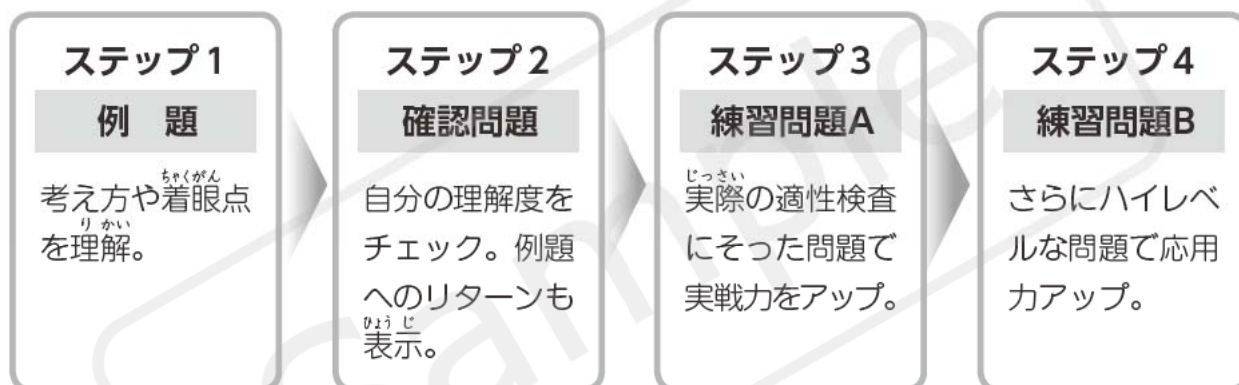
この本の特色と使い方

この問題集は、「思考力」「表現力」「判断力」「分析力」をみる総合的な問題を集めたものです。まずは、覚えなければいけない知識は何か、どうすれば考えをすばやくまとめられるか、どう表現すればわかりやすいかといったことを意識しながら学習しましょう。そして、基礎的な問題から類題、さらに応用的な問題へと学習を進めて、適性検査に必要な力を身につけてください。

1～3課は4ステップで構成されています。

ステップ1～3では、基本的な考え方や知識が完全に身に付いていることを確認しながら学習を進めてください。ステップ4では、さらに幅広い形式の問題や、複数の考え方が組み合わさった高度な問題に挑戦して、応用力を高めましょう。

4課の総合問題は、確認問題と練習問題の2ステップで構成されていて、1～3課の内容を総合的に扱っています。多くの問題にふれて、実力を身に付けましょう。



も く じ

1 表現	2
2 地図のきまり	8
3 読解	14
4 総合問題	20

1 表現

テーマ

- 文を書くときに使う符号のもつ意味を覚え、文の中で正しく使うことができるようになる。
- 読点のつけ方によって、文の意味が変わることがあることを理解し、文に正しく読点を打てるようになる。
- 品詞や敬語など、日本語の正しい表現を理解し、正しい文を書くことができるようになる。

例題 1

次の□にあてはまる符号(符号名)をあとのア～キから選び、記号で答えましょう。

- 1 あとの言葉を省略したり、説明を補足したりするときには□を使います。
- 2 いくつかの言葉をならべるときには□を使います。
- 3 かぎかっこの中に、さらにかぎかっこが必要な場合などには□を使います。
- 4 会話文や、思ったことを表す文、なにかの文章を引用した部分や、本の名前などを示すときには□を使います。
- 5 あとの言葉を省略したり、会話文で間をとったりするときには□を使います。
- 6 感動を表すときや、相手に命令するときなど、強い気持ちを表すときには□を使います。
- 7 問いかけや疑問の気持ちを表すときには□を使います。

ア 「 」(かぎかっこ) イ ! (感嘆符) ウ ? (疑問符)
 エ — (ダッシュ) オ …… (リーダー) カ ・ (中点) キ 『 』(二重かぎ)
 1 () 2 () 3 () 4 () 5 () 6 () 7 ()

考え方

ステップ ①

文章を書くときには、符号の役割をしっかりと覚えて、適切に使わなければなりません。例題1で問われた符号のうち、そのいくつかを実際の文章の中でどのように使われるかを確認しながら、整理してみましょう。

ステップ ②

次のそれぞれの文の()にあてはまる符号を入れましょう。

- ・「きのう、お母さんがぼくに、(①)もっと、がんばって勉強なさい。(②)と言ったんだ。」
- ・日本の大都市には、東京(③)横浜(④)名古屋(⑤)大阪などがあります。
- ・「ああ、あのとき、ぼくがゴールを決めてさえいれば(⑥)。」

基礎知識

原稿用紙の使い方

- 1 はじまりの行は1マス空け、改行した後も1マス空ける。
- 2 会話文では改行する。1マスは空けなくてよい。(会話文以外の「」は改行しない)
- 3 「」○、□、!、?などは1文字分。○は1マスに入れる。
- 4 — (ダッシュ)や…… (リーダー)はそれぞれ2マス分使う。
- 5 ○、□(句読点)、」(閉じかぎ)は行頭にもってこない。
- 6 縦書きの原稿用紙の場合、数字は漢数字を用いる。

例題2

次の文に読点を1つつけると、A・B2つの場合が考えられます。A・Bの文の意味のちがいを説明しましょう。

ここではきものをぬいてください。

A ここで、はきものをぬいてください。

B ここでは、きものをぬいてください。

- 考え方** **ステップ1** Aの文は、「ここで」の次に(①)が打たれているので、ぬぐべき対象となるものは(②)であるとわかります。
- ステップ2** Bの文は、「ここでは」で区切られているので、ぬぐべき対象となるものは(③)です。

例題3

次の①～④の文の——線部には、それぞれまちがいがあります。正しい日本語表現に直して、文全体を書き直しましょう。

- ① ぼくはこの本を読んで、とても悲しい物語だとこの本を読んでぼくは思いました。
- ② 今のままでは、とうてい作品は完成するだろう。
- ③ どうぞ遠慮せずに、お茶をいただいでください。
- ④ わたしはピーマンがきらいで、食べれません。

- ① () ② ()
- ③ () ④ ()

- 考え方** **ステップ1** まちがいの理由をしっかりと理解して、正しい文を書きましょう。
- ① 1つの文の中に(①)という主語と(②)という言葉が2度ずつ使われています。
- ② 「とうてい～ない」という(③)の呼応ができていません。
- ③ 敬語の使い方に誤りがあります。「いただいで」という言い方は、自分をへりくだっていうときに使う(④)なので、正しい敬語にするためには、この部分を、相手を上に見て、敬う言い方である(⑤)にしなければなりません。
- ④ 「食べれません」という言葉は、「(⑥)」という誤った表現です。ふだん、何気なくまちがって使うことが多い表現なので、注意しておきましょう。

基礎知識

知っておきたい、誤用の多い慣用語

- 気が置けない…親しい。遠慮の必要がない。●拍車をかける…力を加えて、物事の進行を早める。
- ひざを打つ…よい案がうかんだり、感心したりしたときのようす。
- 的を射る…重要なところを的確にとらえる。
- きびすを返す…もときた道を引き返す(「きびす」とは「かかと」のこと)。
- 取り付く島もない…相手がそっけなく、話をするきっかけが見つからないようす。

